

～男女共同参画社会の実現に向けて～

モア MORE

幸手市^{ひと}女と^{ひと}男の情報紙
第23号 2018

モア(MORE)とは、女と男が^{ひと}より豊かに、^{ひと}よりすばらしい
男女共同参画社会実現への願いを込めて命名しました。



絵・デザイン：大字天神島天神神社 三澤昭人 作

- ◆^{ひと}女と^{ひと}男の共生セミナー・・・・・・・・・・ 2
- ◆第26回埼葛人権を考えるつどい・・・・・・・・・・ 3
- ◆日本女性会議2017とまこまい・・・・・・・・・・ 3
- ◆特集 ちがいはかけがえのない個性
～ダウン症の娘と共に生きて～・・・・・・・・ 4



幸手市マスコットキャラクター
「さっちゃん」

平成29年度 ^{ひと}女と男の共生セミナーin東中学校



(東中学校の皆さんと)

平成29年度「女と男の共生セミナー」は、10月30日(月)に幸手市立東中学校で、開校40周年記念式典とあわせて開催しました。今回のセミナーは、音楽活動のかたわら、全国の病院や福祉施設を回るボランティアコンサートを行っている松尾貴臣さんによるトーク&ライブです。1年の半分は全国でライブ活動を行い、残りの半分は「イクメン」として、共働きの妻と一緒に積極的に育児に取り組んでいます。

テーマ ～じいちゃんの死と娘の誕生～ 命はこうやって思わぬ事でつながって、君は生まれた

1. 夢をもち その夢を実現させたい

中学生の頃、歌への夢を持ちはじめ、歌で人生に影響を与えるミュージシャンに憧れて作詞作曲を始める。**自分らしく生きていくためにプロになりたい。**両親の応援もあり大学に進学し長崎から上京。



まつお たかお
講師 松尾 貴臣 氏

2. 音楽人生を変える出来事 資本主義から感動主義

初めての病院でのライブ。ガン患者の方と出会って作った歌を歌う。患者さんが、涙を流しながら拍手をしてくれる姿に感激する。**いかに人を喜ばせられるか、歌を通して社会の人に力を与えたい。**“歌の力で日本を元気に”の合言葉。お金を稼ぐより夢を追いつけたい。誰かの役に立つことで夢は成長していく。そして社会貢献を活動の軸とする会社を立ち上げる。

3. 偏平足のじいちゃんの死 そして娘の誕生

じいちゃんの口癖。「偏平足が理由(長く歩けないため兵役検査で不合格)で太平洋戦争にいかなくて良かった。」偏平足のおかげで母が生まれ、自分が生まれ、娘が生まれる。命の大事さや人としての優しさ、たくましさ。**命を歌うスペシャリストになりたい。**そして長崎出身のミュージシャンとしての使命、**平和を歌い上げたい。**

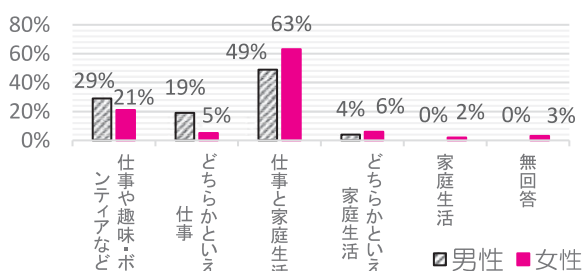
最後は、ステージから降りて生徒の中に入り、会場が一つになって、歌と手拍子が響き渡りました。「松尾さんの歌や音楽に対する気持ちや姿勢から、**“好きという気持ちがあればまわりの人を変えられる”“夢をもつことの大事さや命の大事さ”**を知ることができました。」と生徒会長がお礼の言葉を述べました。東中学校の生徒全員が同じ気持ちだったと思います。

感じたことをそのまま表した歌詞。心に響く歌声。そしてトーク。共生セミナーに参加した全員に感動を与えてくれました。

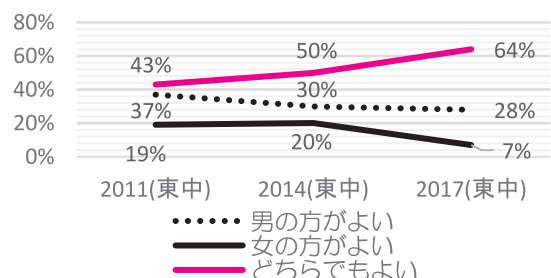
男女共同参画アンケート結果

会場の皆さんにアンケートを実施しました。
ご協力ありがとうございました。

Q あなたは大人になったら何を優先しますか？



Q 生まれ変わるとしたらどちらが良いですか？



第26回

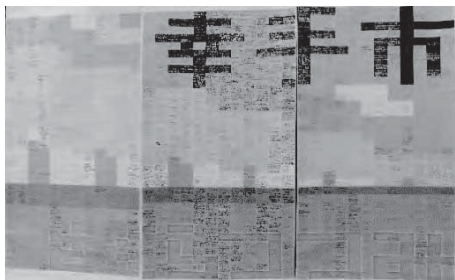
埼葛人権を考えるつどい

～出会い ふれあい 思いやり～

お互いに相手を思いやり、協力し合う「和」をテーマに「埼葛人権を考えるつどい」が10月12日（木）に越谷市コミュニティーセンターで盛大に開催されました。

この「つどい」は、出会い、ふれあい、思いやる中で、古いものを敬（うやま）い、新しいものを生みだし、「人の和」をもって争いや差別のない、「明るく平和な社会」が実現されるよう、人権意識の向上のため開催されるものです。

埼葛地区の子どもたちから寄せられた、全国各地の被災者の復興を願う「折鶴」は、今年で、72万羽になり「子どもたちの願い」が会場全体を埋め尽くし、来場者を迎えました。



（市内児童・生徒の人権メッセージ）

人権とは、誰もが等しく、人が人として幸福な生活を送る上で、欠かすことのできない、尊い権利です。

私たち一人ひとりが、相手を大事に思う温かい心と、お互いの立場を尊重し、理解しあう気持ち、日々行動することが必要だと思います。

市民一人ひとりが、お互いの人権を認め合うことのできる差別のない地域社会の実現に向けて、使命感を持ち人権教育、啓発活動に取り組む決意が示されました。

次回は、2018年10月11日（木）に、春日部市民文化会館で「愛」をテーマとして開催されます。



（フィナーレ）



日本女性会議 2017とまこまい

～北の大地で語ろう

これからの未来の一步を～



（苫小牧市長挨拶）

2017年10月13日（金）、14日（土）に北海道苫小牧市で、全国から約3,000名が集い、第34回「日本女性会議」が開催されました。

「市民・団体の力 + 企業の力 + 行政の力 = オールとまこまい を合言葉に、男女共同参画について考える大会を目指して、企画や準備を進め、777日目、今日がその日です。」と岩倉博苫小牧市長が熱く挨拶されました。高橋雅子実行委員長が「平等社会の実現に向け、新たな一歩を踏み出すために、そして、明るい未来を子どもたち、若者たちにつなぎ、日本女性会議が実り多いことを願って、この北の大地で大いに語り合いましょう。」と呼びかけました。

その後、特別揮毫（きごう）と講演が二つありました。

※揮毫（きごう）とは：毛筆で言葉や文字、絵などを書く（描く）ことを言います。

一つ目は、書家金澤翔子さんの心を込めた力強い揮毫と、母親である金澤泰子さんの講演「ちがいはかけがえない個性～ダウン症の娘と共に生きて～」です。

二つ目は、劇作家、演出家、女優である渡辺えりさんの講演「夢みる力～つながる幸せ～」です。

翌日は、11の分科会に分かれて、話し合いが活発に行われ、個性を伸ばす教育の大事さ、誰もが生き生きと暮らせる社会を考えることの重要性に気づかされました。

次回、第35回「日本女性会議」は、2018年10月12日（金）、13日（土）に、石川県金沢市で開催されます。

特集

日本女性会議2017とまこまい
特別揮毫講演から

ちがいはかけがえのない個性 ～ダウン症の娘と共に生きて～

〈プロフィール〉

金澤泰子／金澤翔子の母・書家、東京芸術大学評議委員、
日本福祉大学客員教授
著書に「翔子の書」「金澤翔子涙の般若心経」などがある。
金澤翔子／書家

5歳で母、泰子に師事し、書道を始める。20歳で初の個展を開催。
その後、建長寺（鎌倉）、建仁寺（京都）、東大寺（奈良）などで個展を開催。
2012年NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を担当



金澤 泰子氏 金澤 翔子氏

～共に生きる～

金澤翔子さんは、ダウン症という障がいを持って生まれたが、母、泰子さんの嘆きをよそに、周りの人たちに優しい光と愛を注ぐ子どもに成長した。翔子さんが舞台の上で一筆一筆、全身の力を込めて書き上げた文字「共に生きる」を掲げたとき、しーんと静まり返っていた会場全体が、われんばかりの拍手に包まれた。

～ちがいはかけがえのない個性～

翔子さんは、競争心がなく純粋で優しい心を持っている。10歳の時、276文字の般若心経を10回以上厳しく指導しながら書かせたときも、反抗することなく、ただ無心で書き続け、涙で文字が濡れることもあったとか。

そんな娘を見て、亡き夫が「翔子が20歳になったら個展をやろう。」と話していたので、1回限りと思って個展を開いたところ、それが、大勢の人たちに認められ、書家と言われるようになり、以来、現在まで290回も個展を開いているそうだ。

「私の書を見て涙を流す人はいないが、翔子の作品を見て涙する人がたくさんいるのは翔子の書は魂で書く書のためではないか。」と話された。

「生きてさえいれば絶望はない。」泰子さんの話に心を打たれ涙する人が多かった。

講演を聞き、「ちがいはかけがえのない個性」という思いを強く持ちました。誰もが生き生きと暮らせる社会をめざして、日々私にできることからはじめてみようと思いました。

表紙の絵

幸手市の各地域には、昔から神社や碑（ひ）などがあります。それぞれ謂（いわ）れがあり、地域の人たちにより大事に守り伝えられています。

この天神神社は、室町時代に一色氏の建てたものといわれ、社殿には運慶作といわれる祭神が二体あり、33年ごとにご開帳されるそうです。

編集後記

「父親も育児に参加を」。国が呼びかけている新聞記事を読み、今でも性別による役割分業の考え方が、根強く残っていると感じました。

この意識からの転換をどうしたらよいでしょうか。

一つ目は、家族を大事にする考え方の重要性を、一人ひとりがこれまで以上に認識し、男性も育児や家事などを積極的に共有していくことが必要だと考える。

二つ目は、男性は働き方の意識改革を考える。

三つ目は、女性はあらゆる分野での社会参画を目指し、能力を発揮できるよう考える。

市民一人ひとりがあらゆる立場において、互いの考え方や生き方を認め合い、行動できるような社会になりますようにと願い、この「モア」がそのささやかな一助になれば幸いです。



2018年3月1日発行（年1回発行）第23号／幸手市市民生活部人権推進課発行 幸手市男女共同参画推進協議会編集

〒340-0192 幸手市東4-6-8 TEL 0480-43-1111 内線162 FAX 0480-44-0257